

## 2 みんなの意見・感想

今回の調査におけるアンケートにご回答いただきありがとうございました。レポーターの皆様から様々なご意見やご感想をいただきました。

※皆様からお寄せいただいた意見・感想から抜粋し、漢字や文章の表現など意図を変えない範囲で修正を加えて掲載しています。

### <鳥>

●散歩をしていると、いろいろな鳥の鳴き声がありますが、なかなか姿を見ることはできず、見分けが難しかった。飛び方の特徴とか、遠くで見た時の特徴とか知りたい。(サギであることは分かっても、コサギかどうか分かりづらかった。)

●裏が山なので、最近はいろいろな種類の鳥が来るのですが、よく見ようと近寄ると逃げられてしまうので見分けが難しい。鳴き声だけで判断するのも難しいです。

野鳥の観察は、他の動植物の観察のように「手に取ったり」「近づいたり」した観察が出来ません。そんなところが難しいと思われるのかもしれませんが、また鳴き声だけでは名前も分からず、飛んでいる姿では判断も出来ずということもあるかと思えます。

私も始めはそうでした。でも野鳥を知るのは何の方法もありませんでした。興味を持ってもらうのが第一です。初めに一番身近にいて、誰でも知っている“スズメ・ハト・カラス”（ものさし鳥）について知っていきましょう。その大きさ・模様・飛び方・歩き方・鳴き声・他の鳥との違い。散歩の時でも観察出来ると思います。知ったことは周りの人に話しましょう。

初心者だからと考えず観察会（探鳥会）等にも顔を出してみませんか。少しずつでも興味がわいてくれば“しめた”ものです。次に大きな鳥“カモ類・サギ類”から見いきましょう。

どうですか、面白くなってきましたでしょう。

●鳥はすぐ逃げたり、遠くにいたりするので、観察や見分けが難しいです。似た鳥もたくさんいるので、アプリを利用するといいかな？と思っています。

●ツバメがいつもより早く訪れたので驚きました。

●毎年鳥を見ていた場所で木の伐採がありました。今までいた鳥もいなくなり、ちょっとさみしくなっていました。落ち着いたら戻ってくるのでしょうか。

山鳥を見ました。何年ぶりでしょう。うれしくなって、しばらく見とれてしまいました。松田から名草に向かう途中でしたがまだいるんですね。

●今年も5月頃より中国のガビチョウが集団で飛んできて、小鳥達は逃げまわり、又、ジューンベリーや柿の実が熟した頃やって来て殆ど食べられてしまった。

毎年楽しみにしているウグイスの鳴き声も数回しか聞くことができなかった。

●外来種のガビチョウの増加が目立ちます。(あちらこちらに鳴き、飛んでいる)

●外来生物が増えていると実感した。削減対策案があれば教えてほしい。

・ガビチョウ(鳴き声が美しく気分が良くなるが、ウグイスとの競合、ホトトギスへの影響が気になる。セミも食べられているようだ。羽が落ちていた)

・コジュケイ(外来種、大正時代、中国から持込)

ガビチョウ類にはガビチョウ、カオグロガビチョウ・カオジロガビチョウなどがおり

「特定外来生物」の指定を受けています。

本来の生息地は中国南東部から東南アジア北部とされています。

1900年代から野生化が始まり、その後急速に分布を広げています。

やぶを好み、林内の低木層を利用しますが、最近では平野部まで進出しています。

森林性の鳥(チメドリ科)なので、ウグイス等の鳥に影響が懸念されています。

多雪地帯では冬にエサを取ることができず、分布の障壁になっているようですが、

季節異動をするガビチョウも出ているようです。

ただ、このガビチョウの影響は他の移入種鳥や在来種の生態系にどのように誘引

されるのかはまだわかっていません。今後を注視したいと思います。

対策等については、“こうだ”という方法は見出せていません。

- シロサギが思ったより大きかったです。近くにいてもあまり逃げようとしませんでした。
- 白いサギがたくさんいます、双眼鏡で見ると足が黄色くない（コサギではない）ので分かりませんが、ほかの調査員の方も足をよく確認してほしいです。

よく観察いただき、ありがとうございます。おっしゃるとおり、コサギの識別ポイントは黄色い足指です。ダイサギなどは足指が黒くなっています。今後、白いサギを観察する場合には、足指の色に注目して観察してみてください。

- 2月に袋川の中を掃除してもらってからコサギ・ダイサギ・アオサギが来しました。今年袋川でカワセミを見られなかった。
- カワセミが好きでレポーターを続けていましたが今年は4月以降1回だけでした。1月から3月までは4、5回みられました。
- 我が家の東の細い川ですが、時々、カワセミが遊びに来てくれますので楽しみです。
- 鳥の姿は冬の方がよく見えるので、冬の調査もしたいです。

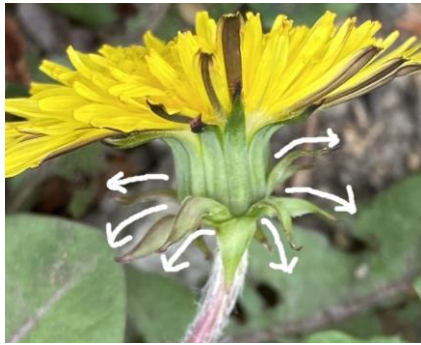
「わたしたち足利の自然」の編集作業の都合上、報告書の提出を10月としていますが、11月以降の調査報告も受け付けています。翌年度の10月末までに提出いただければ、翌年度の「わたしたち足利の自然」に掲載できますので、冬の調査結果もぜひ、ご報告お願いします。

## <植物>

- 昨年の秋、金木犀が2度咲いて全国的に話題になりましたが、今年も規模は少ないながら9月の満開と10月の一部返り咲きがありました。この秋も山吹や椿の返り咲きがありました。極端な寒暖差に植物も戸惑っているように思いました。これから先、この傾向が続くと本来の花期に咲く力を残せなくなることも出て来るのではと、不安です。

●<sup>が</sup>外<sup>いら</sup>来<sup>い</sup>のタンポポと<sup>ざ</sup>在<sup>いら</sup>来<sup>い</sup>のタンポポの<sup>く</sup>詳<sup>わ</sup>しい<sup>お</sup>見<sup>し</sup>分<sup>え</sup>け<sup>み</sup>方<sup>わ</sup>を<sup>お</sup>教<sup>し</sup>えて<sup>え</sup>く<sup>み</sup>だ<sup>わ</sup>さい<sup>わ</sup>（<sup>え</sup>絵<sup>み</sup>を<sup>み</sup>て<sup>も</sup>分<sup>わ</sup>かり<sup>わ</sup>にく<sup>わ</sup>か<sup>わ</sup>った）。

<sup>した</sup>下<sup>し</sup>の<sup>しゃ</sup>写<sup>しん</sup>真<sup>さん</sup>を<sup>さ</sup>参<sup>さん</sup>考<sup>こう</sup>に<sup>し</sup>て<sup>み</sup>て<sup>く</sup>だ<sup>さ</sup>い。



<sup>が</sup>外<sup>いら</sup>来<sup>い</sup>タンポポ  
↑<sup>そ</sup>外<sup>そ</sup>来<sup>う</sup>タンポポ  
(<sup>そ</sup>総<sup>う</sup>苞<sup>へん</sup>片<sup>が</sup>そ<sup>り</sup>か<sup>え</sup>っ<sup>て</sup>い<sup>る</sup>)



<sup>ざ</sup>在<sup>いら</sup>来<sup>い</sup>タンポポ  
↑<sup>そ</sup>在<sup>そ</sup>来<sup>う</sup>タンポポ  
(<sup>そ</sup>総<sup>う</sup>苞<sup>へん</sup>片<sup>が</sup>そ<sup>り</sup>か<sup>え</sup>っ<sup>て</sup>い<sup>な</sup>い)

●アザミの<sup>み</sup>見<sup>わ</sup>分<sup>か</sup>け<sup>わ</sup>方<sup>わ</sup>が<sup>分</sup>分<sup>ら</sup>な<sup>い</sup>

アザミは<sup>い</sup>以<sup>か</sup>下<sup>ひ</sup>の<sup>ひ</sup>表<sup>ょう</sup>を<sup>さ</sup>参<sup>さん</sup>考<sup>こう</sup>に<sup>み</sup>見<sup>わ</sup>分<sup>か</sup>け<sup>て</sup>み<sup>て</sup>く<sup>だ</sup>さ<sup>い</sup>。

	ノアザミ	ノハラアザミ	キツネアザミ
<sup>か</sup> 花 <sup>き</sup> 期	<sup>が</sup> 5月 <sup>が</sup> ～8月	<sup>が</sup> 8月 <sup>が</sup> ～10月	<sup>が</sup> 5月 <sup>が</sup> ～6月
<sup>は</sup> 花 <sup>な</sup> 色	<sup>へ</sup> に <sup>む</sup> ら <sup>さ</sup> き <sup>い</sup> ろ 紅紫 <sup>し</sup> 色	<sup>へ</sup> に <sup>む</sup> ら <sup>さ</sup> き <sup>い</sup> ろ 紅紫 <sup>し</sup> 色	<sup>へ</sup> に <sup>む</sup> ら <sup>さ</sup> き <sup>い</sup> ろ 紅紫 <sup>し</sup> 色
<sup>そ</sup> 総 <sup>う</sup> 苞 <sup>へん</sup> 片	<sup>ち</sup> よ <sup>く</sup> り <sup>つ</sup> 直 <sup>ね</sup> 立 <sup>ば</sup> 、粘 <sup>る</sup>	<sup>そ</sup> や <sup>か</sup> え <sup>り</sup> 反 <sup>か</sup> り <sup>か</sup> え <sup>る</sup> 、 粘 <sup>ね</sup> ら <sup>な</sup> い	<sup>ち</sup> よ <sup>く</sup> り <sup>つ</sup> 直 <sup>と</sup> 立 <sup>っ</sup> き <sup>あり</sup> 、 粘 <sup>ね</sup> ら <sup>な</sup> い
<sup>そ</sup> 草 <sup>し</sup> 姿	<sup>じ</sup> ょう <sup>ぶ</sup> 上 <sup>え</sup> 部 <sup>だ</sup> で <sup>わ</sup> 枝 <sup>わ</sup> 分 <sup>か</sup> れ <sup>す</sup> う <sup>ご</sup> 数 <sup>は</sup> 個 <sup>な</sup> の <sup>は</sup> 花 <sup>を</sup> つ <sup>け</sup> る	<sup>じ</sup> ょう <sup>ぶ</sup> 上 <sup>え</sup> 部 <sup>だ</sup> で <sup>わ</sup> 枝 <sup>わ</sup> 分 <sup>か</sup> れ <sup>す</sup> う <sup>ご</sup> 数 <sup>は</sup> 個 <sup>な</sup> の <sup>は</sup> 花 <sup>を</sup> つ <sup>け</sup> る	<sup>じ</sup> ょう <sup>ぶ</sup> 上 <sup>え</sup> 部 <sup>だ</sup> で <sup>わ</sup> 枝 <sup>わ</sup> 分 <sup>か</sup> れ <sup>た</sup> す <sup>う</sup> 多 <sup>は</sup> 数 <sup>な</sup> の <sup>は</sup> 花 <sup>を</sup> つ <sup>け</sup> る
<sup>せ</sup> い <sup>い</sup> く <sup>ち</sup> 生 <sup>は</sup> 育 <sup>ち</sup> 地	<sup>さん</sup> や 山 <sup>の</sup> 野 <sup>原</sup>	<sup>の</sup> は <sup>ら</sup> 野 <sup>原</sup>	<sup>た</sup> は <sup>た</sup> 田 <sup>あ</sup> 畑 <sup>の</sup> 畔 <sup>や</sup> 野 <sup>原</sup>

●大きなトゲのあるものが生え、花はピンクのアザミのような植物を発見しました。植物を見て初めて「こわい」と思いました。

情報が少なく、名前は特定出来ませんが、発見した植物はアメリカオニアザミの可能性が高いです。もしくはヒレアザミの可能性もあります。

アメリカオニアザミはヨーロッパ原産のアザミで、葉や茎に固く鋭いトゲがあり、手に刺さると痛みを伴います。畑、牧草地、道端などに生育し、頭状花の色は、紅紫色です。

【開花時期】7月～10月 【高さ】約50cm～1m

## <昆虫>

●チョウの見分けが難しいです。

チョウの見分け方ですが次の方法が考えられます。

- ①観察会などに出席して見分け方を教わる。または詳しい人に尋ねる。
- ②SNSなどを利用して撮った写真を見もらう。
- ③図鑑やネットなどを利用して自分で調べる。

①は催し自体少ないこと、身近に詳しい方がいない可能性が高いことから③の自分で調べるのが一番実現性は高いと思います。

足利市で見られるチョウは90種程度、そのうち半分くらいの種が観察しやすいのでまず身近なものから調べてみてはいかがでしょうか。ネットや図鑑で繰り返し調べるとそのうちわかるようになります。

お薦めの図鑑は2022年発行の「学研の図鑑LIVE 昆虫 新版」です。これまでの図鑑は標本写真でしたが、生きた虫を白バックで撮影したもので、画期的なものです。チョウに限らず昆虫全般とクモやダニ、サソリ、ムカデなども出ています。多くの協力者と一流の執筆陣により出来ました。子ども向けという図鑑ですが、私のような虫のことが少しわかったと思っているような大人にも大いに役に立ちます。

●アゲハチョウがあまりいなかった。ハグロトンボがたくさんいた。

●この夏はいろいろな種類のセミが鳴いてセミしぐれを楽しみ、又、秋には虫の声が沢山聞けて秋の夜を楽しむことができました。

●近くに水辺はないのですが、毎年ハグロトンボが2・3匹、7月中旬から庭に来ます。8月中頃ふっといなくなるので、きっとどこかの水辺へ産卵に帰るのでしょう。

●小さい昆虫に目が行くようになって来て見たことがない種に出会うのが楽しみになってきました。

●毎年見つけたオオカマキリを見つけることができませんでした。

●オンブバッタですが、地球温暖化の影響で11月9日現在もけっこういます。この分ですと自然環境下で12月くらいまで生きている可能性があります。

●雷電山に、さまざまな種類の昆虫がいることがわかった。来年はくわしく調べたい。

### <水辺の生き物>

●水辺の生き物を見つけやすかった。草が増えていた。

●渡良瀬川の中橋・田中橋付近のサケの発見ができませんでした。(10月～11月)

●姥川や三栗谷用水に細長い魚が集団で見られるが、何の魚か分からない。

●ウシガエルが1匹しかいなかったです。

●かえるについて、この数年の傾向ですが、やはり又マガエルに圧倒されて、今年度(4月～10月中)はアマガエルを見ることが叶いませんでした。マシジミの川に見に行けず確認できなかったのが次年度は見に行けたらと思いました。

●又マガエルは昨年にくらべてますます増えているように感じます。また新しく出来た道路の排水溝にダルマガエルが集まるようになったので水場をさがす名人だとなんだか感心してしまいました。

●どじょう、アメリカザリガニなど、田んぼや用水では最近ほとんど見られなくなった。見つけ方があるのでしょうか。

●最近アメリカザリガニが少なくなった、特に赤い大型が急激に見られなくなった。他の調査員はどう感じられていますか。

どじょうは、用水路などの脇をあるくと、泥を巻き上げて勢いよく土や水草の中に隠れることが多いようです。私は歩きながら水中に動きを見つけると、その付近でしばらくしゃがんで様子を見ます。すると安心して出てくるものがあるため、その時に生物の種類を見分けることができます。あとは、ねらいを定めて網で泥ごとすくうなどして見つけますが、それを行わなくても見つかることは多いと思います。

アメリカザリガニは、季節ごとに様々な様子が見られることが多いので、季節ごとに何度か繰り返し同じ場所に出かけて、調べてみてください。以前より赤い色の大きな個体が減って、目立たない色の個体が増え、見つけにくくなった可能性があります。目立つ個体が、鳥などに食べられる事が多いのかもしれませんが、その辺もくわしく調べてみてはいかがでしょうか。

### ＜外来生物など＞

●クビアカガが松田にもいる事にショックでした。

●クビアカツヤカミキリの被害が顕著に出ていて、足利から桜の名所が無くなってしまおうのではないだろうかと、痛々しく手当された幹を見るにつけ、思います。

●アメリカオニアザミ発見。

オオキンケイギクと黄花コスモスの違いがわかり、あちこちに咲いているのがわかりました。ナガミヒナゲシはずいぶん前から繁殖していたと思います。

●調査を<sup>ちようさ</sup>していると、<sup>がいらいせいぶつ</sup>外来生物が<sup>ぼしよ</sup>いる場所にも、<sup>しぜんゆた</sup>自然豊かな<sup>ぼしよ</sup>場所にいる<sup>せいぶつ</sup>生物が<sup>い</sup>ることがあ<sup>っ</sup>た。また<sup>いちぶ</sup>一部の<sup>がいらいせいぶつ</sup>外来生物は、<sup>とくていがいらいせいぶつ</sup>特定外来生物が<sup>ところ</sup>いる所にも、<sup>きようぞん</sup>共存しているものも<sup>い</sup>た。

●18-63で、<sup>さくねん</sup>昨年<sup>い</sup>にカオジロガビチョウが<sup>い</sup>増えて、<sup>きじ</sup>キジ、<sup>ムクドリ</sup>ムクドリ、<sup>モズ</sup>モズなどが<sup>すく</sup>少なくな<sup>っ</sup>た。その後<sup>ご</sup>ガビチョウが<sup>あらわ</sup>現れると、カオジロガビチョウが<sup>すく</sup>少なくな<sup>っ</sup>た。しかし、その<sup>い</sup>ガビチョウが<sup>ぼしよ</sup>いる場所<sup>おほ</sup>でヒヨドリが<sup>い</sup>多くみ<sup>ら</sup>れた。また、<sup>カラス</sup>カラスや<sup>アオサギ</sup>アオサギが<sup>い</sup>増えるとガビ<sup>い</sup>チョウは<sup>いちじてき</sup>一時的に<sup>い</sup>なくな<sup>っ</sup>た。18-62では、<sup>しぜんゆた</sup>自然豊かな<sup>ぼしよ</sup>場所の<sup>せいぶつ</sup>生物も、<sup>とくていがいらいせいぶつ</sup>特定外来生物も<sup>い</sup>ろいろな<sup>しゆるい</sup>種類が<sup>い</sup>みつ<sup>か</sup>った。このこと<sup>い</sup>から、<sup>がいらいしゆ</sup>外来種が<sup>い</sup>れば、<sup>しぜん</sup>自然が<sup>うしな</sup>失われていると<sup>い</sup>言<sup>え</sup>ないよう<sup>い</sup>に<sup>かん</sup>感<sup>じ</sup>ら<sup>れ</sup>た。

### <その他の生き物>

●今年<sup>ことし</sup>はとうとう<sup>すがた</sup>姿<sup>み</sup>を見<sup>い</sup>な<sup>か</sup>った<sup>い</sup>生きもの（<sup>ヘビ</sup>ヘビ、<sup>オニヤンマ</sup>オニヤンマ、<sup>かえる</sup>かえる、<sup>ツバメ</sup>ツバメ、<sup>かたつ</sup>かたつむり、<sup>カブトムシ</sup>カブトムシ、<sup>クワガタ</sup>クワガタ<sup>ようちゆう</sup>幼虫）

●今年<sup>ことし</sup>は<sup>ひさびさ</sup>久々に<sup>み</sup>かたつむりを<sup>み</sup>見<sup>ま</sup>した。<sup>なんねんぶ</sup>何年振り<sup>ぶ</sup>になるか、<sup>ひさびさ</sup>久々に<sup>こども</sup>子供の<sup>ころ</sup>頃<sup>おも</sup>を<sup>だ</sup>思<sup>い</sup>出<sup>し</sup>、<sup>う</sup>うれ<sup>し</sup>く<sup>な</sup>りました。

●<sup>しか</sup>鹿は<sup>こども</sup>子供が<sup>う</sup>生まれ<sup>たら</sup>しく、<sup>とう</sup>3頭<sup>こと</sup>でいる<sup>おほ</sup>事が<sup>おほ</sup>多<sup>く</sup>な<sup>っ</sup>た。<sup>たぬき</sup>狸も<sup>にわ</sup>庭<sup>み</sup>で見<sup>おほ</sup>かける<sup>おほ</sup>ことが<sup>おほ</sup>多<sup>く</sup>、<sup>かき</sup>柿<sup>み</sup>の<sup>と</sup>実<sup>と</sup>を取<sup>と</sup>っていると<sup>そば</sup>側<sup>よ</sup>まで<sup>よ</sup>寄<sup>り</sup>て<sup>き</sup>て<sup>かき</sup>柿<sup>た</sup>を<sup>ちか</sup>食<sup>く</sup>べて<sup>い</sup>た。あまり<sup>い</sup>に<sup>く</sup>近<sup>く</sup>に<sup>く</sup>来<sup>る</sup>の<sup>だ</sup>が、<sup>やせい</sup>野生<sup>い</sup>の<sup>い</sup>生き<sup>もの</sup>物<sup>な</sup>ので<sup>ふあん</sup>不安<sup>き</sup>な<sup>も</sup>気<sup>も</sup>持<sup>ち</sup>もある。

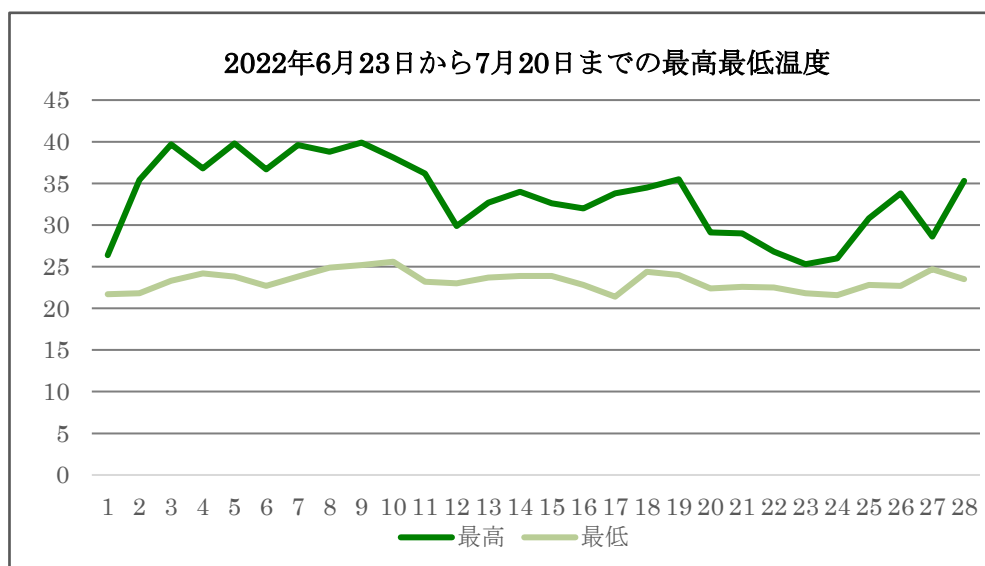


## ＜気候・自然環境の変化など＞

●今年も炎暑で長く厳しい夏でした。アブラゼミが少し回復してきたと感じました。一昨年の極端な減少は何だったのか気になりましたが、今年はニイニイゼミが少なく、ハルゼミに至っては山火事以降、声を聴くのが稀になりました

『セミの出てくる順番も狂ってしまった』と報告されているように、確かに順番が狂ってしまったようです。一番わかり易かったのがツクツクボウシで、普通は8月の後半から聞こえるのですが、今年は7月下旬に鳴いていました。

これは私の考えですが、6月末に40℃近い温度が数日続き、そのあと7月12日～16日にかけて最高気温が30℃を下回る日が続きました。この急激な温度変化により、季節が進んだものと思い込み羽化が促進されたのではないかと思います。最低気温はそれほど変わらないことから最高気温に影響されたものと考えています。以下に気象庁のホームページから佐野市（足利市はない）の6月23日～7月20日までの温度変化をグラフにしてみました。



6月末の高温の影響からか、その後の虫全般の数が少ないと感じられた研究者もいます。異常気象の影響で世界的に昆虫の減少は顕著ですが、異常気象は続きそうですので深刻な問題です。セミの発生状況の変化は異常気象の一つの例となりそうです。

## 〈全体的な感想〉

- 分からない鳥の写真があるけれど、写真を市役所に送ると調べてもらえますか。
- めずらしい品種等を見つけた時やスマホで写真を撮れた時にライン等で送れたらいいかと思えます。  
初めての参加で要領を得ず少し意識が低かったと反省しています。

ページ下部にあるとおり、名前が分からない生き物の写真や画像を市役所に送っていただければ、先生方に見ていただき、回答することができます。その際、画像の質によっては断定できない場合もありますので、ご了承ください。  
また、珍しい生き物の写真提供もお待ちしております。

## 名前がわからない 生き物を見つけたら？



市環境政策課にご質問をお寄せください！  
検討委員の先生方に鑑定していただき、  
回答します。  
あなたの質問が貴重な発見につながるかも？

次のことに気を付けて  
よく観察してください。

- ①いつ
- ②どこで
- ③大きさ
- ④色
- ⑤鳴き声、飛び方などの特徴

市環境政策課にメール・手紙・電話等で  
これらの情報とともに  
ご質問をお寄せください。  
(連絡先は裏表紙の裏側をご確認ください。)



写真があると  
より鑑定しやすいので  
可能な場合は撮影し、  
写真も一緒にお送りください。

※お寄せいただいた写真は、報告書の表紙等に掲載させていただく場合がございますので、ご了承ください。

●初めて報告を出させていただきました。日にちの控をつけておかなかったため、日にちをつけられませんでした。来年は、みつけたらすぐ日にちをメモしておくということを心掛けていきます。

●10月になるといつも反省ばかりです。

●春に届くとわくわくしながら調査するのですが、夏・秋もじっくり取り組めるようになりたいです。気になる生き物は見つけられませんでした。

4～10月の半年間、ずっと調査への意欲を保つのは難しいことです。  
ひとつの案として、6～9月を中心に開催している環境政策課の観察会へ参加してみ  
るのもいいのではと思います。そこで刺激を受けることで調査への意欲が高まるかもしれ  
ませんし、何より観察会の講師に直接教わり、質問ができる良い機会ではないでしょ  
うか。

●見分けが難しかったけど、意外とたくさんの自然と触れあえた。

●家の近くにも生き物が意外とたくさんいてびっくりしました。

●植物と水辺の生き物は、勉強不足で分かりにくかったです。

●水辺の生き物はその場所（環境）に行かないと観察できないので、なかなか観察する機会がありませんが、鳥類や昆虫は、自分たちの生活の場所に飛来してくることもあるので楽しみにしています。

●家の庭や公園のみの調査でしたが、年少の子供と一緒に楽しく虫を探ることができました。

●調査期間中にレポーター間で情報を共有できるような場やシステムがあるとよいと思う。

●関心のあるものについてはわかりますが、いつも同じようなものしか気づきません。もう少し見方を深めたいとおもっております。これから先も環境に貢献したい気持ちがありますので、環境レポーターの調査を続けていきたいとおもっております。

- おすすめの生き物・植物判別アプリがあれば教えてほしいです。

「生き物判別アプリ」などのキーワードでインターネットで調べていただくと、アプリがいくつか出てきます。ゲーム形式で生き物調査を進めていけるようなアプリもありますので、どれが自分に合うかいくつか試してみるといいかもしれません。

- 早朝ウォーキングをしながら調査を行っていたので時間的な偏りがあります。それはそれで良いのかも知れませんが昼間や夕刻での観察も必要かと反省。

- 年々、行動半径が縮小し、自宅が中心になりました。  
近所の桜が枯れていくのは苦々しく思います。

- 茸についても、見たことがない物が出現して、面白く観察しました。ハタケチャダイゴケは中に粒状の胞子(?)を12~15粒位、一つの器状の本体に蓄えていました。「大人の自由研究」をしてみようと思ったのも、環境レポーターをさせて頂いたからです。  
当たり前と思っていたこと、特に環境の変化のスピードが温暖化の影響で劇的に脅威になっているのがレポートを通じて実感できました。

- なかなか調査・観察する機会が減ってしまい、反省。  
最近になり、子供が虫の世話をするのが好きになったので、来年に期待。

- 今回の調査では書くのが最後になってしまったけど、水路で魚を取ったり網を持ったりして、畑や庭で捕まえた生き物を観察してみるのもすごく楽しかったです。

- 以前にやったときと比べると前に見なかった動植物がいたりした。逆に前に見た動植物がいなかったりもした。

- 私事ですが、還暦を迎えました。これからは、初心にもどって、1つ1つ自然を味わっていきたいと思います。

- 今回じっくり観察することができませんでした。しかし、環境レポーターをしていると自然とふれあう機会が増えて、あたたかい気持ちになります。

●ポイント(TPO=時・場所・見つけ方)の要点の参考資料があると(それに縛られる可能性はあるが)良いのでは。

●見分けの設問で、日頃馴染みのあるものはすぐ分かるので、親しみやすいに○を付けたのですが、名前が分からないものについては全然分からない。

今年度も環境レポーター事業にご参加いただき、ありがとうございます。  
報告数の多い少ないに関わらず、身の回りの自然に目を向けて興味・関心を持っていただき嬉しく思います。

当事業は皆様のその興味・関心の芽を育てるお手伝いをする取り組みであると考えております。身近な生き物への興味から始まり、調査を続けていくうちに生き物の生育環境、さらには地球温暖化などの環境問題にも目を向けていただければ幸いです。

また、来年度は当事業開始から30周年を迎えます。引き続き皆様に楽しく調査いただけるよう、今回頂いたご意見も取り入れながら改善を重ねていきますので、よろしくお願いたします。



▲ヤモリ(レポーター提供)



▲クダモドキ(レポーター提供)